

令和5年度犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会
移動支援事業検討部会 次第

日時：令和5年8月24日（木）

午後2時～午後3時

場所：犬山市役所 2階 202会議室

1. あいさつ

2. 議題

(1) 高齢者移動支援モデル事業について（資料1）

(2) その他

愛知県移動支援モデル事業について

高齢者の社会参加を促す環境づくりとして、運転に不安を持つ高齢者が自家用車に依存しなくても生活できるよう、高齢者の移動を支援する取り組みとして瀬戸市、半田市、日進市、北名古屋市、設楽町とともに2020年度から2022年度までの3年間、「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」として実施した。犬山市も少子高齢化に伴い、社会保障費の増大やマンパワーの不足が問題となっている今、今回構築する移動支援事業はあくまで“住民同士の支え合い”という形を目指し参加した。

2020年から市内の移動実態、ニーズ及び担い手の把握を目的としたアンケート調査や移動から考える地域づくり勉強会を開催し、2022年2月から実証実験を開始した。毎週木曜日午前中に、入鹿地区の利用者自宅から名鉄犬山駅付近のスーパー（キャスタロヨシズヤ）までの往復送迎を犬山市社会福祉協議会がサロン車両・ドライバーを提供し実施した。

実施実績；期間 令和4年2月から令和4年10月まで

回数 37回

延べ利用者数 154人

平均利用者数 4.16人/回

その後、社協に代わる担い手の発掘のため、民間事業者（車両販売店・葬祭業者）に打診するなど、様々な業者に働きかけを行ったが、モデル事業に直接結びつく成果は上げられなかった。

実証実験終了後とその後

実証実験の利用者は移動中に、地区の人たちと同じ時を一緒に過ごすことが楽しいと感じていた。この交流の機会をいい形にできないかとSCと相談したところ、地域にサロンづくりを検討することとなった。そこに空き家の貸出の話とマッチングし、11月から「えんがわ茶論（サロン）」として、月1回開催し地域の交流を行っている。現在は、地域の乳幼児連れのママさんも参加し、地域の多世代交流の場になっている。

今後の展望

当市の公共交通に対する施策の見直しに合わせ、協議体等を通じてもう一度地域の実情に合った施策を研究していく。

様式第2 (第5条関係)

会議録

1 附属機関の名称

犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会 移動支援事業検討部会

2 開催日時

令和5年8月24日(木) 午後2時から3時まで

3 開催場所

市役所 2階202会議

4 出席した者の氏名

(1) 委員 加藤 武志 委員(名城大学)
板津 克哉 委員(犬山市社会福祉協議会)
豊田 啓子 委員(介護サービス事業者協議会)
森岡 万朱衣 委員(楽田地区コミュニティ推進協議会)
河村 政徳 委員(一般社団法人和顔の輪)

(2) 事務局 健康福祉部高齢者支援課 課長 前田 敦
// 課長補佐 粥川 仁也
// 統括主査 竹本 佳世
// 主査補 間内 享子

5 議題

(1) 高齢者移動支援モデル事業について(資料1)
(2) その他

6 傍聴人の数

0人

7 内容

事務局

○開会

それでは定刻前ですが部会の方を始めさせていただきます。
本日はお忙しいところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。
ただいまから、令和5年度犬山市高齢者地域ケア生活支援推進協議会移動支援事業検討部会を開催させていただきます。
本部会は、犬山市における地域包括ケア及び生活支援の推進のうち、高齢者が自家用車に依存しなくても生活できる環境を整備するために、高齢者の移動手段を調査・研究することを目的として設置されております。委員の皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。
本会議は、犬山市附属機関の会議の開催に関する要綱に基づき、傍聴希望者に公開いたします。本日の傍聴はございません。また、本会議の議事録については、ホームページで公開いたします。公開にあたり、委員2名以上の署名が必要となり、

後ほど部会長より指名されますので、あわせてご承知おきください。では開会にあたり、加藤部会長よりご挨拶をお願いいたします。

加藤部会長

はい。改めましてこんにちは。令和5年の初回になるんですね。前回から間が少しあきましたけど、今日はよろしくをお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。議事は、お手元の資料に沿って進めさせていただきます。また、本会の議事録を公開するために録音させていただくことについてご了承いただくようお願いいたします。

それでは、事前に配布しました資料の確認をさせていただきます。1つ目は、令和5年度犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会移動支援事業検討部会次第、2つ目は、犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会移動支援事業検討部会委員名簿、3つ目は、資料1ということで愛知県移動支援モデル事業についてのA4用紙1枚と高齢者の移動支援ということでカラー用紙が3枚あるかと思えます。それが1セットということになりますのでよろしくお願ひします。また、冒頭に河村委員より「手と手とてとてと」「みるくる犬山」こちらの2枚を配布させていただきましたので、また何かの参考にしていただければと思います。それでは、規則第6条第2項に基づき、議事の進行は加藤部会長をお願いしたいと思います。では加藤部会長、よろしくお願ひいたします。

加藤部会長

規則によりまして、以降の議事進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。全員参加ということでこの会議は成立しますので、ご安心ください。本日の会議の会議録を後ほど、承認いただく議事録署名を河村委員と森岡委員にお願ひしますので、よろしくお願ひします。

今日は、1時間と短い時間ですので、早速次第に基づいて、議題に入りたいと思います。

(1) 高齢者移動支援モデル事業について、事務局からご説明お願ひします。

事務局

それでは、資料に沿いまして、高齢者移動支援モデル事業について、ご報告させていただきます。資料をご覧ください。

愛知県移動支援モデル事業は、高齢者の社会参加を促す環境づくりとして、運転に不安を持つ高齢者が自家用車に依存しなくても生活できるよう、高齢者の移動を支援する取り組みとして、瀬戸市・半田市・日進市・北名古屋市・設楽町とともに、2020年度から2022年度までの3年間、「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」として実施しました。

犬山市も少子高齢化に伴い、社会保障費の増大やマンパワーの不足が問題となっている現状があり、このモデル事業で構築する移動支援事業は、あくまで”住民同士の支え合い”という形を目指しての参加でした。

資料次ページからの3枚は、「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」の報告書の犬山市の報告を抜粋したものになります。この愛知県移動支援モデル事業の3年間の取り組み内容として、2020年から市内の移動実態や移動支援のニーズ及び担い手の把握を目的としたアンケート調査や、移動から考える地域づくり

勉強会を開催し、2022年2月から実証実験を開始しました。毎週木曜日の午前中に入鹿地区の利用者自宅から、犬山駅近くのキャストロヨシヅヤまでの往復送迎を犬山市社会福祉協議会からサロン車両とドライバーを提供していただき、実施しました。

実施実績ですが、期間は令和4年2月から令和4年10月までの9ヶ月間、延べ37回実施しました。延べ利用者数は154人で、平均利用者数としては1回当たり4.16人でした。利用者はすべて女性で、男性の利用はありませんでした。私も実際何度か移動支援車両に同乗しましたが、皆さんとても楽しそうでした。毎週木曜日を楽しみにしてくれており、お化粧品をして、かわいいマスクをして利用してくれていました。車両を待つ時間も車両の中でも、利用者のおしゃべりは止まらず、笑い声でいっぱいでした。利用者の中には、「1週間誰とも話していないから、この日が楽しみなの」という方もいらっしゃいました。

このように、入鹿地区での実証実験は、利用者からの評判もとてもよく、区長さんたちからも移動支援事業を現状のまま継続して欲しいとの要望がありました。そのため、社会福祉協議会に代わる担い手を発掘しようと、車両販売店や、葬祭業者の民間事業者に打診するなど、働きかけはしましたが、事業に直接結びつく成果はあげられませんでした。

実証実験終了後、同じ地区の人たちが同じ時を一緒に楽しく過ごしていたこの時が、全くなくなってしまふのはもったいない、地域の繋がりが少しできた今、何かにつなげたいと思い、羽黒・池野地区高齢者あんしん相談センターのSCと相談しました。そこに協議体の参加者の方から、所有している空き家を活用したいというお話がありマッチングし、移動支援事業が終わった11月から「えんがわ茶論(サロン)」として月1回開催しています。現在は、地域の乳幼児連れのママさんも参加して、地域の多世代交流の場になっています。以上です。

加藤部会長

ありがとうございます。報告書も添付されていて、これまでに行われた、取り組みアンケートから始まって、勉強会、実証試験をやって、社協さんが、だいぶバックアップしてやられて、地元でも評判よかったってことなんですけど、ここまでの事業実績について、何かご質問ですとか、ご意見ですとか、感想でも構いませんのでありませんか。1人一言ずついただければいいかなと思います。そのあと、なかなか継続しなかったって今事務局から説明がありましたが、社協さんもずっと担い続けるのは大変だったんですね。

板津委員

そうですね。もともと実証実験という期間限定ということがあったので、できました。実際これを継続してやっていこうと思うと、多分色々な、法律であったりとかをクリアしていかないとやれないっていうことが継続できない最大の要因だったのかなと私は思っています。当然、もし、継続していくのであれば、もともとサロン事業の空き時間に協力していた形でしたので、そこはもし継続ということになれば、その協力は引き続きできたかもしれません。ただ、このあくまでも実証実験ということで、エリアも限られたところですし、これを大きく広げていこうと思うと、社協だけではどうにもならない所がありますので、他の団体さんたちの協力なくしては、難しいっていうところはやっぱりあると思いますので、そ

ういった観点を総合的に見ていくと、今の段階では、ちょっと実施継続が難しいのかなというふうには感じてます。

加藤部会長

なるほど。ありがとうございます。次に豊田さん、感想でも構いませんのでどうですか。

豊田委員

平均利用者数が4人っていうことで・・・こんなに少ないんだっていう感想です。もっと利用者がいてもいいのかなと思うのですが、実際はこのぐらいなんですってというのが感想ですね。犬山という地区が、まだまだ家族支援が中心で、近隣にご親族さんがいて・・・他の人に頼らなくても何とかなってしまう地区なのかなあというのを感じながら、でも少しずつ、核家族やご親族が遠方に行ってる所も増えつつあるので、今後はやはり、いずれ必要なんだろうなっていうのを思いながら、聞かせていただきました。

加藤部会長

ありがとうございます。森岡委員は、ご自分でドライバーとかもやられていて、一番肌感覚があると思うんですけど、利用者が4人とちょっと少ないのではないかというあたりも含めて、感想でもご意見でもいただければと思います。

森岡委員

自治体の方が協力をしてくださって、2年前に始めた時は、まだそんなにお体が不自由でなかったんですけど、今は杖を使わなきゃいけない、乗り降りがちょっと大変っていう方も出てきています。自治体の方がけがをしてはいけないということで、一応保険には入ってるのですが、このまま続けられるかなと・・・実際のことを言えば、私自身は今ちょっと運転をしてないんです。運転をしてもらえるグループが確立できていますから。

加藤部会長

運転する人は、勉強会のおきに、何人かお会いした男性の人たちですか。

森岡委員

男の人たちは、自治会の方ですね。運転はすべて女性で、8名ぐらいです。

加藤部会長

自治会は協力してるけど、実働は違うんですね。

森岡委員

実際には、女性がローテーションを組んで、都合のいい時に誰か彼かが運転しています。合計で10名ですね。それで回らせていただいています。

それは順調なんですけど・・・将来的には一番はじめにやりたかった、お買い物をしてきてあげてお届けしてあげるといふふうにしていきたい。もう近々そんな形になってしまうだろうなという方もいらっしゃると思います。車の乗り降りができなくなってきたので、もうそちらの方をちょっと進めていかなければいけないなというふうに思っているところです。

それで、ここに書いてあったんですけど、実験をされて、その期間が決まったたということで、その後の11からえんが茶論をやってみえるということで、すごいいなあと思いました。ここまで自分で来れる人しか行けないからそれがどうなのかと思いました。それと、経費とかは、どんな感じですか。

事務局

その地区に住んでいる方が、自分の実家が空き家になっていたの、そこをぜひ利用してくださいということでお貸しいただきました。そして、あんしん相談センターの人と、お掃除等をして綺麗にして使えるようにして、お借りをしています。無料でお貸しいただくのは申しわけないよねという話が参加者から出てきて、今は1回100円の参加費をお支払いするという形でやっておられます。今は、まだあんしん相談センター主導で行っていますが、今後は自主化していく予定です。

加藤部会長

なるほど。そこに集まってらっしゃる方は、若い子連れのお母さんもいると説明があったんですけど、どれぐらいが参加していますか？

事務局

最初に始まったときは、移動支援に参加してくれた人で反省会ではないけれど、どうだったってということで、集まってもらって、皆さんお話していただいて、やっぱりこういうふうに集まりたいよねというお話になりました。そして、名前が決まって・・・玄関のところに「えんがわ茶論」という看板があるのですが、それは空き家を貸してくださった人が手作りをし、設置してくれました。

加藤部会長

なるほどすごいですね。

事務局

空き家の家主の方が、ちょっと体調を崩した時に、そのサロンに来てる方が気にかけてくれて、お惣菜を作って持ってきてくれたり、声をかけてくれたりしていたそうです。だんだんサロンだけでなく、地域の繋がりも生まれてきているみたいです。

加藤部会長

さきほど、森岡委員から質問があった、ここに来れる人はいいいんだけれども、なかなかここまで足を運べない人に対しては、どうですか。

事務局

おそらく、今は歩いて来れるのでいいとは思いますが、だんだんと来れなくなったりする転換期が、数年後にも来るんだろうなと思います。そこをまた、協議体であったり、サロンの中でどうしていこうっていう話が生まれてくるといいかなと思っています。

事務局

今の移動支援のお話なんですが、森岡委員とは公共交通会議でもご一緒させてもらってまして・・・当市では、コミバスであったり、当課が所管してるタクシーであったりとバラバラでやってるんですね。当然移動ということになると名鉄さんであったりだとか、バスであったりだとか、様々なネットワークがあるから、特に当市は東部に行くと、移動が難しいですよ。今は豊田委員がおっしゃられたように、そのようなニーズというのは、何とか家族でやっていただいているのがあるんですけど、いずれそういった話が出てくるんですよ。今は当市全体で公共交通のあり方を検討させていただいています。もちろん100点満点というわけにはいきません。100点満点というと、皆さんが自由にタクシーが使えるということ

ですよね。財源の話から考えてもそれは無理なので、フォーマル、インフォーマル組み合わせで、公共交通をどうしていくかということに着手しております。名鉄であったり岐阜バスであったりコミバスっていうのが大きな幹になって、枝の部分を私どもが所管してるタクシーであったり、昨年市の防災交通課がデマンド交通の実証実験をやっていますが、そういったものを組み合わせ、要は、これから来るといふかももうすでに来かかっている・・・高齢者が増えてくる・・・高齢化率を申し上げても、介護保険が始まった2000年当時は大体15%ぐらいだったのが、今やもう30%に達しようと・・・およそ20年で倍ですよ。これからどんどん人口は減ってるんですが、年齢階層は上がっていくものですから、より一層そういった支援というのが必要になっていくことが課題です。ただその時になってから考えては遅いものですから、今の段階から市全体でそこを考えさせていただいて、繰り返しになるんですけど100点満点というわけにいかないし、当然行政だけではできないので、森岡委員のところとかいろんなところで助けていただいている部分、自助と共助の部分とそれから公助の部分の組み合わせで、いかに足を確保して、こう生活を確保していくというのがいいですね。医療であったりだとか買い物であったりだとか、そういう生きていく上で必要なことができるようなものという取り組みをまだ答えは出ていませんけれども、取り組んでおりますので、市としても、おっしゃっていただいた通り、今ここで逃げはちょっと取り返しがつかないことになるものですから検討を始めた状況にあって、それが問題だというふうに認識をしていて、いかにその課題を解決していくのかという部分に着手し始めた。5年かかるのか10年かかるのかわかりませんが、徐々にそういったものを時代に合わせてやっていかなければいけないという状況にあるということをご報告をさせていただきたいというふうに思いますので、ご理解いただければと思います。

加藤部会長

今日このすごいタイムリーな資料もあって、「えんがわ茶論」の写真があってよかった。またね、地域の地元の地域福祉の状況だったりとか、一番詳しいのは河村委員だと思うんですけど。今全体を伺って、感想でもいいですし、こうしたら続けていけるんだとか、そういうことも含めてお願いします。

河村委員

資料の追加で今日配らせていただきましたえんがわ茶論を皆さんに見ていただきましたが、今度裏表紙の方を見ていただければと思います。真ん中のところのピンクの丸のところに電動セニアカー体験乗車会という話載っています。サロンとか高齢者の集いの場である地域の集会所までも来れなくなったっていうご意見っていうのは、やっぱり出てくるんですね。先ほどお話のあったように、2年3年かけてだんだん変わってくるというのをサロンとか運営されてる方は目の当たりにされてると思います。今、高齢者の買い物支援をされてる楽田コミュニティさんもそうだと思うんですけど、2年前は来れてたのに、今は来れなくなったっていう方がだんだん増えてきているという肌感覚があります。このチラシの電動セニアカーの体験利用の時は、善師野台っていう、ここもなかなか陸の孤島ですよ。ここでも町内にある集会所までも来れなくなってる方もおられそうで、この電動セニアカーを使って、団地

内をぐるぐる回ってみたんですが、すごく楽しまれて、「これだったら買い物行けそうだね」と言っていました。そこが、自助に近いところになっていくのかと。自分で行ける範囲は自分でというところですね、こういったものの活用も必要になってるかなと思います。

あともう1点、モデル事業についてなんですけど、モデル地区の選定っていうところで、豊田委員も言われたように、池野地区が代々その土地にお暮しになっていて、ご家族や近親者の援助ができ上がってるような地域だったかもしれないですね。実は、傍から見るとあそこは困ってそうだなっていう地域に見えがちなんですけど、実は地域の中で協議体とかやっていると、新興住宅、昭和40年代に造成されたような住宅で、核家族で、今、親世代だけが住んでおり、息子さんや娘さんが東京とか大阪に出て行かれてるようなところっていうと、週末の援助が受けられなかったりとか、近所づき合いがなかったりというところで、実は過疎地よりも、町の中にある昭和40年代に造成された団地の方が、困っていたりとか・・・今、実際楽田でやっていただいているところの数字が・・・倉曾もそういう感じですね。そういうのがやっぱり、地域の感覚としてはあるなと思いますね。

各地区の協議体なんかでお話を聞いている中でも、やっぱりその地域性というので、古くからの地域は、何かしらの手だてができ上がってるんじゃないかなと思います。ただ、先ほどからお話が出るように、今から体制は作っていかないといけない。今できてることも今後できるかどうかというところもあると思います。急に5年後に作ろうとなってもすぐに作れるものではないので、何かしらこういうモデル事業であったりとか、有志の皆さんによる今の移動支援の手だてを続けていただいて、徐々に太くしていくというようなことができると思います。

加藤部会長

はい。ありがとうございます。では、いま一通り一言ずついただきたいんですが、他の委員さんの意見も聞いて、ちょっと感じたこととかあれば・・・ご意見ありますか。

河村委員

移動支援に意欲がある、興味のある住民さんからのご意見だと、この2021年12月に勉強会をやっていますね。その時の川崎民子先生の講義が印象に残っているというお話を伺っています。そこで勇気ももらって、やれるようになったと言われてますね。そのため、こういった勉強会も有意義だったんですね。

加藤部会長

サロンを、11月からすぐにやり始めたというのは、とってもすごいなと思っていて・・・最初の事務局の説明の中で、やっぱり車の中が和気あいあいとして、その日がすごい楽しみだったというのは、もちろんお買い物に行くということもあるんでしょう・・・やっぱり話す機会とか顔を合わせることは、すごい価値があるということなんだろうなと思うんですけど。逆に、お買物の部分が、少しなくなってしまっただけとか、その辺の移動に関して、ヘビーユーザーだった方たちは、何かおっしゃってることとかありますか。

事務局

ヘビーユーザーさんたちは先ほど言われたみたいに、昔から過疎地だったので、その移動手段というのは皆さん大体持っていらっしゃっていて、週末には息子さ

んたちが来てくれる。しかし、自分の足で行って、自分でお買い物をしてくるというところがあったので、みなさんすごい楽しみにされていていっちゃったようでした。買い物の手だては、一応ある、できないわけではないところではあったんですけど、ただ、本当に自分の意思ですね、お買い物に連れてってと頼むというひと手間、自分の欲しいものを買って帰るといふ楽しみの部分の方が大きかったように、お話ししてると思いました。

加藤部会長

他はどうか。

板津委員

今、事務局が言われたように実際参加者で、家族もしくは自力で原付バイクに乗って買い物に行ける方も実際にいるけど、今回の実証実験では、1人ではなくてみんなでワイワイしながら買い物に行くっていうのが1回加わったっていうところが現状ではあるんですが、先程お話に出た、今はいいけれど先のことはわからない。結構、うちもそのサロン支援をやらせてもらっていますけど、池野地区にはあまりできてこなかった中で、逆に今回の実証実験が、機になって、そういうのが必要だっていうことを認識していただいたところは、次へのステップとしては非常に効果があったのかなと思います。実証実験としては・・・というのはありますけど・・・池野の方って本当にどここの誰々ちゃんみたいにみんなわかるっていうか、そういう世界ではあるのでそういう繋がりが見えてはいるんですけども、実際に繋がりがある定期的にあるかっていうと、そういうものがなかった。そういう意味では、いいきっかけになったかなっていうふうに思います。

豊田委員

サロンに行けなくなってきたらと、お迎えのあるデイサービスに少しずつ移行していくのかなっていうのは感じてるんですけど。まだ介護が必要じゃないとか、まだちょっと行きたくないとかの気持ちがあると、やっぱりどうしても閉じこもりになって出かけられないっていう状況になってしまう。そうなるとうろしょうがない、行くしかないかなと思直し、介護保険のところに行ってみて、意外と楽しかったっていう印象があるとサービスに繋がっていったりします。サロンとデイサービスさんとの連携があるとそういうところがスムーズに行くのかなと思っています。買い物に関しては、お子さん達が遠方であったりすると、意外と皆さんネットで注文して、どんどんものが届くんですよ。だから、一人暮らしになってしまっても、お子さんたちがいらしゃると、どんどん宅配で物は届いているんです。

加藤部会長

ありがとうございます。森岡委員何かありますか。今やっててちょっと困るとか、課題だっていうのは、何かありますか。

森岡委員

これは課題って言ったらいいいのかわからないんですけど、ただ頼みたい方は潜在的にはいるはずなのに、申し出てもらえない。だからその辺がもう少し、誰でも気軽に依頼してきていただけるようになるのもっといいのになあと思っています。地区の総会の時にPRもしてるんですけど。声がかかってこないのはどうしてなのか。

- 板津委員 一番最初ってなかなか言いにくいですよ。一番はじめに誰か言えば言えますけど。口火は切りたくないのかもしれない。
- 森岡委員 ドライバーの子達が、20代30代40代と結構若いんです。若いから、結構高齢者の方と、話をしたりとか、そういうのが楽しいとかやっぱり年の功だわとか言っているのいいことだなあと思っています。ドライバーの人数も多いので、若い人だと月に1回でも済んでしまっていて・・・負担がかかるのはいけないと思っていますが、それがちょうどいいのかと思っています。
- 河村委員 ドライバーの担い手というところで、楽田のコミュニティさんはすべて女性とありますが、同じような話題を他の地区の協議体でお話をする、青パトは男性しか乗っていけないとか、そういうローカルルールみたいなのがあって・・・女性とか若い方が青パトを運転しても良いっていう風土ができ上がっているのは、楽田の強みですよ。
- 加藤部会長 いや、最初に男性ですかって言ったのはそういうイメージがやっぱりあったから。
- 森岡委員 女性の会で毎週土曜日は必ず乗ってますし・・・それも楽しいんですって。そういう担い手の人たちの中でコミュニケーションが取れていて。
- 加藤部会長 だから、森岡委員じゃないとつukれないんだよね。若い人たちの掘り起こしとか、そのあと続けていくのが難しいですよ。そういういいモデルがあるので・・・この県のモデル事業としては一段落かもしれないけど、色々なことを聞いてねって言ってくださっている。あと一方ですね、河村さんが紹介してくださったセニアカーでしたっけ。あれも面白いですね。自分でお借りしてそこまで行けるような感じですか。
- 事務局 介護保険の要介護2以上の方が対象で、車椅子という形になります。要支援の方達はどうしても買い物に使いたいというところで、これしかないという形ですと、軽度者のレンタルという取扱いで、主治医の先生の書面があれば、検討させていただいて、許可が出るもんですから。そういった形で、やっぱり利用される方もかなりいらっしゃいます。
- 森岡委員 高いんですか。
- 河村委員 自費で買うと約38万円くらい・・・介護保険でレンタルすると1割負担の方で2,000円程度ですかね。
- 事務局 そうですね。それでも自分の足で買い物に行くというところで、コロナ禍でも、外出はそれだけでやってたっていう方もやはりいらっしゃいましたので。

河村委員

保険を使わずにご自分で購入されてるのはありますね。主観ですけど地域性見てると、南地区ですかね、三河屋さんとかカネスエさんとかだと、歩道を走っておられる方をよく見かけますね。歩道があるとこじゃないと走りにくいとかということがあります。

加藤部会長

さっき、事務局が言われたみたいに、そういうフォーマルなことだけではなくてインフォーマルな、ちょっとこれ借りようかなとか、今は自分でも何とかなるけど、今後2年とか3年で変わっていくので、その時に選べる選択肢だったり、こうなるよって言うてあげるチャンスだったり、それはやっぱ続けていかれるといいのかなあという風に思いますね。100点満点はないっておっしゃった通りで、全部手厚くはできないけどもね。河村委員が言われてるように、こういうことやってるっていうのはすごいいいし、先輩が背中を見せてくれてるので、他の地区でやりたいってなったらちょっと見に行こうとかそういうことができる。それは、絶対他の町ではないことだし、すごい素敵な事だと思う。サロンが続いてるのもね。

一応議題としては、この報告ともう一つありまして、今までは、この移動支援事業検討部会というのを外出してあったんですけど、一旦これを区切りにしたらどうかということですが、事務局どうですか。

事務局

移動支援部会ですが、当初県の委託をしたためそこを特化してやっていくという部分があったのと、今のお話から、潜在的に移動支援というのは必要だということは皆さん多分思っているのですが、例えば、お話を聞くと地域性ですとか、他の問題も絡んでいるかなというふうに思いますし、そうなってくれば、部会だけでやるのではなく、いわゆる協議会ですね、本会議の方に様々な要因を入れてお話をしていかないと解決ができない問題かなというふうに感じますので、一旦この部会については、この県の事業が終了したというところで報告をして、閉めさせていただいて、それで総合的な問題の中の一つの問題として、移動支援をとらえながら、他の要因をまぜて、話していくようにしていきたいと思いますので、一度この部会を閉めて、今後は移動支援に関することは、地域ケア生活支援推進協議会、本会の方で話していくような形にできればということでご意見が確認できればと思います。

加藤部会長

はい。今事務局から説明があった、地域ケア生活支援推進協議会、本会に吸収されるということでご異議がなければ、と思うのですがどうでしょうか。

河村委員

はい。そうですね。地域の中でこのように有志でやっておられる移動支援っていうのは本当にありがたいところなんですけど、なかなか全市的にまだ考察するところまでは進んでないなと思ってます。そういった有志の方たちが、どんどん増えていって欲しいなと思うんですが。全市的にまた皆さんで検討しなければというときになりましたら、ぜひまたこういった部会を開いていただければと思うんですが。今回はこの愛知県の事業が終了しましたので、一度、閉じていただいても

と思います。

加藤部会長 今、河村委員からそういうご提案ありましたけど、ご異議はないですか。

各委員 (異議なし)

加藤部会長 ご異議なしということなので、一旦閉じて、本会の方に戻すということにしたいと思います。(1)の方の高齢者移動支援モデル事業については終わり、(2)のその他の方について、何かございますか。

事務局 事務局としては、特にはございません。

加藤部会長 他に何かあれば・・・

河村委員 もう1枚、みるくる犬山というチラシをつけさせていただきました。今のサロン活動、つどいの場ですとか、地域の支え合いの活動の情報、犬山市内5圏域の生活支援コーディネーターが、集めて更新しています。ものすごい更新頻度で更新してます。週に2回3回と更新してますので、ぜひQRコードから見れますので、ご覧いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

加藤部会長 議題としては(1)も(2)も終わったので・・・本日は円滑な進行にご協力いただきありがとうございます。事務局に戻したいと思います。

事務局 活発なご議論ありがとうございました。以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

令和 6 年 2 月 20 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)